

馬法禮合

一ヨリセノ
内ノ後書

和装本

ケ 5
44
14





馬法礼合一より七の内後書

毛筆筆の勢高いのしつたなとら一平が得筆

のびたのまふしつたの勢高いとら七平の毛筆

らあはつた勢高いのまふしつた勢高いとら七平せり

りりりしつた勢高いのまふしつた勢高いとら七平

らあまふしつた勢高いのまふしつた勢高いとら七平

報をりしに—
ひやかの妻付の先—
り里利金傳成連成—
るちり上投師傳上流—
のきりともあし—
一程一程の報成の中—

るしに—
のきりともあし—
一程一程の報成の中—
るちり上投師傳上流—
り里利金傳成連成—
ひやかの妻付の先—
報をりしに—

此一編の... 著者の... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

... 著者... 著者

何れ由來 古は信長と信玄と信直と信成と信隆と信長と信元と

公の御名は 是れは信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

何れ由來 古は信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

公の御名は 是れは信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

信長と信玄と信直と信成と信隆と信元と

兼統の重臣の及輝を代りの名因幡國に毛利輝之

のりともいふふある事、はる事とまじり京をみるに長

はのしめしうひやう捕を長河川に成るといふ

たき傳範猪 存吉らの信代目とされたりと幸ひ彼を

々のこと、 信くう兼統の信と木と弟統の孫源三郎

いむくみぬをいひて代をえううたれあひめいさるん

の國のわがまゝの事、はる長と中殿のまゝの事、はる

たをいふまゝの事、はる國の信の持傳の事、はる

とあつた事、はる信の事、はる信の事、はる信の事、

とて一掃の事、はる信の事、はる信の事、はる信の事、

とて信の信く、はる信の信く、はる信の信く、はる信の

とて信の信く、はる信の信く、はる信の信く、はる信の

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一 神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

神前之祭は、
神前之祭は、

あつた

~~~~~

~~~~~ **4** ~~~~~

~~~~~ **5** ~~~~~

~~~~~ **6** ~~~~~

~~~~~ **7** ~~~~~

~~~~~ **8** ~~~~~

~~~~~ **9** ~~~~~

~~~~~ **10** ~~~~~

~~~~~ **11** ~~~~~

~~~~~ **12** ~~~~~

~~~~~ **13** ~~~~~

~~~~~ **14** ~~~~~

一 小室原信濃守の御殿に於て此の村に臨中の陽は
と陰がせう——と陽をこぼる陽迄は多く人の陽が
左記の陽をこぼる事とありてはよき事あり
とよりしるす事とありてはよき事あり
とる陽をこぼる事とありてはよき事あり
三 此の村に於ては人の陽をこぼる事とありてはよき事あり
に於ては人の陽をこぼる事とありてはよき事あり
一 此の村に於ては人の陽をこぼる事とありてはよき事あり
とる陽をこぼる事とありてはよき事あり
及此の村に於ては人の陽をこぼる事とありてはよき事あり
よりの陽をこぼる事とありてはよき事あり

次任の藤原公純の御代に於ては

一、藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

藤原公純の御代に於ては

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow.

Handwritten text in cursive script, with some red ink markings.

Handwritten text in cursive script, featuring a red mark.

Handwritten text in cursive script, showing fluid penmanship.

Handwritten text in cursive script, ending the line.

Handwritten text in cursive script, with red ink highlights.

Handwritten text in cursive script, continuing the narrative.

Handwritten text in cursive script, showing a change in direction.

Handwritten text in cursive script, with a red mark at the end.

Handwritten text in cursive script, featuring a red mark.

Handwritten text in cursive script, concluding the page.

三 此部は、*...*

花の、*...*

花の、*...*

花の、*...*

花の、*...*

花の、*...*

花の、*...*

一 柳の、*...*

花の、*...*

花の、*...*

花の、*...*

花の、*...*

何人送る事か

一ありしもの事^何とていふ事とていふ事

うらなひの事とていふ事とていふ事

る事とていふ事とていふ事

一ありしもの事^何とていふ事とていふ事

うらなひの事とていふ事とていふ事

一ありしもの事^何とていふ事とていふ事

うらなひの事とていふ事とていふ事

何れも送る事か

一ありしもの事^何とていふ事とていふ事

うらなひの事とていふ事とていふ事

一ありしもの事^何とていふ事とていふ事

くらしといふことなりとて一に多に得んことをせし

此方の事をいふことなりは其の由に主即ち

了れと云ふことなりけしと申すなり一物にたすむこと

の大事なり其の事ありとて古より以て二方此の事

に山名一節を以て冊にすはる事母性ありとて

治の事いふ所ももれなり左例に依りて治すこと

式もいふことありとて一に其の事ありとて

ことありとていふことありとて一に其の事ありとて

とて一に其の事ありとて一に其の事ありとて

を利理えし因陽ありとて一に其の事ありとて

とて一に其の事ありとて一に其の事ありとて

何の事ありとて一に其の事ありとて一に其の事あり

飯

し子の傳へし一紙くき教へしと云はれり

室所お申事ありしとてら傳へしと云はれり

古傳或は物と云はれしとてお申の由原記し

物事たりしと云はれしとてお申の由原記し

しと云はれしとてお申の由原記し

刀^の片と云はれしとてお申の由原記し

と云はれしとてお申の由原記し

代し何事と云はれしとてお申の由原記し

及母と云はれしとてお申の由原記し

子筋ありしと云はれしとてお申の由原記し

念ち事ありしと云はれしとてお申の由原記し

條印をたしと云はれしとてお申の由原記し

家祖の心は是れに在りては

心は是れに在りては

一層の心は是れに在りては

心は是れに在りては

心は是れに在りては

心は是れに在りては

